

2022年3月期 連結業績見通し

代表取締役社長
石黒 成直

●市場予測

- 世界経済はマイナス成長からプラス成長へ（W/W：-3.3%/FY2021 → 6.0%/FY2022）
- 米中対立、コロナ禍のリスクは残るが、ワクチン接種や経済対策により生産活動は継続回復
- 自動車、スマートフォンは前期比プラス、PC・タブレットも前期同水準の生産を予測
- モビリティの電動化、再生エネルギーへの転換促進により、ハイパワー二次電池の需要拡大

●DX・EXの潮流が加速、その潮流をしっかりと捉えるためアクセルを踏む年中核事業の更なる成長に向けた積極投資と組織・体制の整備を実行

- 成長投資：二次電池（パワーセル事業本格立上げ、インド市場拡大）
受動部品（xEV、ADAS、5G関連製品の生産能力拡大）
ヘッド・サスペンション（新技術市場投入、サスペンション応用製品拡大）
- センサ事業：これまでの拡販施策の成果を積み上げ、収益を大幅に改善
- 組織・体制：アンテナ機能強化（コーポレートマーケティング機能新設）
Time to Market短縮（製販一体ビジネスカンパニー）
モノづくり力向上、サステナビリティマネジメント

●株主還元

- 配当予想を10円増配し、年間190円に

2022年3月期の市場予測

Production Trend (Unit: Mil. unit)	FY2021	FY2022 (Y o Y)
Automobile*	79	83 (+5%)
<i>therein</i> xEV	5.7	6.9 (+21%)
Smartphone	1,349	1,369 (+1%)
<i>therein</i> 5G Smartphone	300	470 (+57%)
HDD	250	243 (-3%)
<i>therein</i> Nearline	61	64 (+5%)
Notebook PC	214	212 ($\pm 0\%$)
Tablet	165	157 (-5%)

*Automobileは商用車を含む台数

2022年3月期 通期連結売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期予想 (前期比)
受動部品	4,071	+4~+7%
センサ応用製品	813	+22~+25%
磁気応用製品	1,993	+9~+12%
エネルギー応用製品	7,402	+8~+11%
その他	511	—
合計	14,790	16,000

為替前提

為替レート \$/Yen

106.05

105.00

為替レート EURO/Yen

123.67

124.00

2022年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow



(億円)		2021年3月期 通期実績	2022年3月期 業績予想 (2021年4月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高		14,790	16,000	1210	8.2
営業利益		1,115	1,500	385	34.5
営業利益率		7.5%	9.4%	+1.9 pt	-
税引前利益		1,219	1,500	281	23.1
当期純利益		793	1,000	207	26.1
1株当たり利益(円)		628.08	791.62	-	-
配当金		中間：90円 期末：90円 年間：180円	中間：95円 期末：95円 年間：190円	-	-
為替	対ドルレート	106.05	105.00	-	-
	対ユーロレート	123.67	124.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		2,124	3,000	876	41.2
減価償却費		1,403	1,600	197	14.0
研究開発費		1,270	1,400	130	10.2

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2021/4q_1.html